（1）　昭和50年1月25日発行　第719号　旬刊とかち新聞　（昭和32年5月27日第3種郵便物認可）

上京の成果に相異

政治問題化した西小の改築

とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎旬5の日発行　1カ月200円　1カ年前納2,000円

足寄町議会の西小学校建設に関する調査特別委員会では、同校を足寄神社高台に移築するための最大難関となっている危険校舎としては助成の対象にならない鉄筋校舎六教室と体育館にも補助　起債を一との要請で上京した六滝議長、小林町長、岡教育長も参加しましたが、その運動の成果について全員がいつしょに行動したのにもかかわらず、町長や教育長は確たるメドはつかめなかったというのにたいして、特別委員会側では有望で見通しは明るいとして、二十日午後一時すぎから町議会の委員会室に新沼、鳴海、吉田、遠山、湯浅、矢野、大久保、加藤の全委員に六滝議長が出席して特別委員会をひらいて新沼委員長から十勝教育局と難しい、全国的で稀れなことだ、金の借りる途もあるが、借りても金利が高いし、借りても金利が高いしのできる状況ではなく、いずれも一、二分そこそこの立ち話しにすぎなく、岡崎秘書についでは、芽登温泉を買いたいという業界筋との懇談が主だったようで月並みの陳情でしかなく、ただ有望だというのは中川代議士が『安心してくれ』どですが実際に西小をめぐる現状はどうなのかといったただけのことで、同代議士は一行にたいして文部省や自治省や大蔵省へはいくべきでないというので

特別委が見切り発車？

このたびの上京運動の特別委の報告や参加した人々の話しによれば

一、中川代議士はわかつたといい、この問題は鈴木秘書に任せる、お前は足寄出身なのだから政治生命をかけてやれといいあと具体的なことはないがガンバるから安心してくれとのこと

二、本名代議士はチョツ

三、幸谷参事（道教委の東京駐在）にあつたときは予算復活折衝の真つ最中でお話しあえないままに帰町したこと

だつたそうで、おりから東京事務所も議員会館も陳情団でテンヤワンヤの混雑状態で、とてもゆつくり話しのできる状況ではなく、いずれも一、二分そこそこの立ち話しにすぎなく、岡崎秘書については、芽登温泉を買いたいという業界筋との懇談が主だったようで月並みの陳情でしかなく、ただ有望だというのは中川代議士が『安心してくれ』どですが実際に西小をめぐる現状はどうなのかといったただけのことで、同代議士は一行にたいして文部省や自治省や大蔵省へはいくべきでないというので

本年の着工は不可能か

特別委の論議のなかでは『上京中に中川代議士にあるわけではないということです。

というのは、西小の建築がかりに西小を神社高台へ移築することにすれば町費は充分研究、討議した結論である

神本議員　旧態依然たる考え方を一歩も出ていない明日からやれというのではない、片や六学級、片や二十四学級の将来の見通しもなく、それ以前のことをいつている

岡教育長　通学区域の変更なども考えねばならないが現状ではまだまだそれまで飛躍した考え方はできない、現在、西小の建築結論に達していない、適正規模の文部省の考え方は補助的地域によつて必ずしもなり得ないが、できるだけ努力したい

（以下裏面へつづく）

国のうちそと

福祉国家への道

★三木内閣初の新年度予算は福祉と文教に重点をおいた安定指向型だといわれますが、それほどではないとしてもチヨツピリその臭いは感じられようというもの。

★しかしその三兆九千億円の社会保障費にしたところで、狂乱物価で悪徳商法ぶりを発揮した丸紅の一年間の売上げと同じであり、文教科学費の二兆六千億円にしても同様に日商岩井の一社分であり、新

★それらの商社のうえに大企業、大資本が存在していて三百兆円以上の金を動かしているのが資本主義国日本の実態であつて、金の面では政府の力は微々たるものであり、福祉国家だの文化

★資本主義体制を支えるのは大資本、大企業、大商社であり、資本主義政党はその忠実な使用人ではあるが政権を維持していくためには労働者、農民、中小業者の支持を得なければならないのである程度それら向きの政策も用意するけれどもホンモノではないこと。

★労働者や農民が支配する社会主義体制になるのでなければ本当の社会福祉国家は実現しないということ

四、過疎地域における校舎屋体の新増築事業について補助率を三分の二に引上げること

全国の町村が切望しているので大いに陳情すべきことですが、これには政令の改正や国の文教予算の増額がともなうので果していつ実現するかのメドがつかないままに特別委が〝見切り発車〟をした形で、この結論を議会がどうけとめるかが注目されています。

教育施設に町費支出できるのは年間五千万円から七千万円程度といわれており本年は中足寄小の継続工事に五、六千万円、西小の設計費だけでも三千万円に用地買収費が加わるので、これだけでも容易なものではないようです。

というのは、西小の建築委員の協議で神社高台を確認したものですが、道教委では西小の体育館を西端に鉄筋校舎を東端に新築したのは将来本過校舎を改築して双方につなぐためだつたと指摘しており、このさい同じ市街の東小をどうするのかとの課題を投げかけているようです。

東・西両小学校をめぐつて

この足寄市街地の東・西にあるか、五十五年までの推計でも現状の西小二十四学級、東小六学級を越えるいつか、オ三に西小の改築の位置、規模は二校存置の結論のうえと考えるがどういう見解をもつているのか

新津教育委員長　両校平均した形の学級編成は承知しているが、児童、生徒の定数の減で学級編成が変つてくる、そういう時期に至るまでは調整は難しいと判断する、二番目の適正規模の実現の年度は明確にお答えできない、三番目のことい、十八学級が適正規模でないとわんばかりだが、現在⑥二十四、六でよいのか将来町が発展して人口がふえるまで全然手をつけないのか、西小のつぎに東小でなく、それ以前のことをいつている

岡教育長　通学区域の変更なども考えねばならないが現状ではまだまだそれまで飛躍した考え方はできない、現在、西小の建築すら結論に達していない、適正規模の文部省の考え方は補助的地域によつて必ずしもなり得ないが、できるだけ努力したい

（以下裏面へつづく）

この足寄市街地の東・西両小学校の在り方についての推計でも現状の西小二十四学級、東小六学級を越えるいつか、オ三に西小の改築の位置、規模は二校存置の方針を明らかにし、議会特別委も東小を最低十二学級編成にとの結論に達し本会議に報告了承され町長教委にその旨を送付したが今次西小改築の段階で二校の適正規模を明示せず一校放置している責任を問われるまでもなく、そうしてくる、早くから改築への動きは活発だつたものの、未だに道や国にたいして正式に申請の書類は出されていないわけではないということです。

というのは、西小の建築がかりに西小を神社高台へ移築することにすれば町費は年間五千万円から七千万円程度といわれており本年は中足寄小の継続工事に五、六千万円、西小の設計費だけでも三千万円に用地買収費が加わるので、これだけでも容易なものではないようです。

教育施設に町費支出できるのは年間五千万円から七千万円程度といわれており本年は中足寄小の継続工事に五、六千万円、西小の設計費だけでも三千万円に用地買収費が加わるので、これだけでも容易なものではないようです。

委員の協議で神社高台を確認したものですが、道教委では西小の体育館を西端に鉄筋校舎を東端に新築したのは将来本過校舎を改築して双方につなぐためだつたと指摘しており、このさい同じ市街の東小をどうするのかとの課題を投げかけているようです。

新柄婚礼衣裳
きものと帯は
久保呉服店
足寄町　丁二一四八

後援会事務所開設案内

足寄町出身の古川靖晃君の社会的、文化的、政治的活動を後援し、今後の活躍を期待し、足寄町後援会事務所を開設致しますので、同志の方々の御指導、御協力をお願い致します

記

事務所　道東建設工業整備工場二階
西五区　電話　二〇一八番

古川靖晃後援会　会長　岡崎　薫

古川　靖晃（ふるかわ　やすあき）